

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

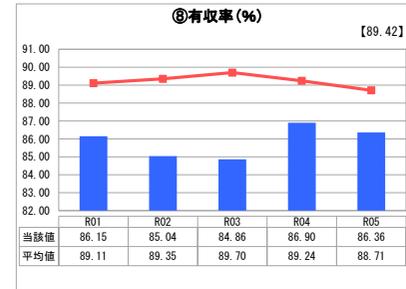
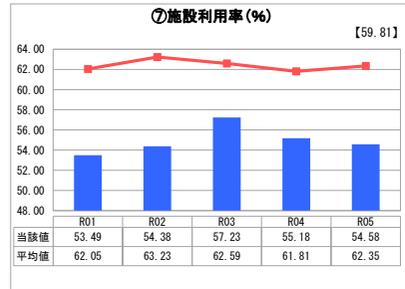
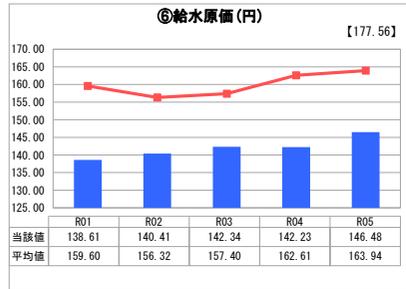
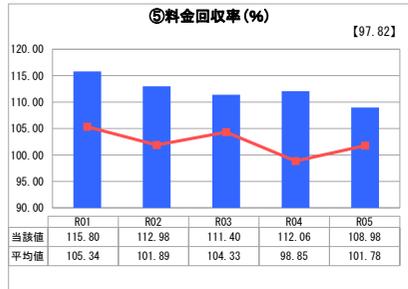
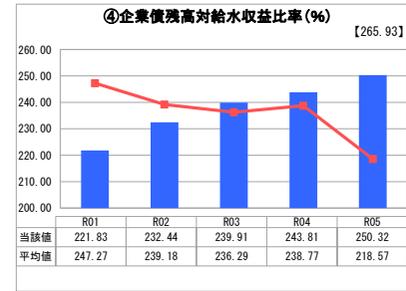
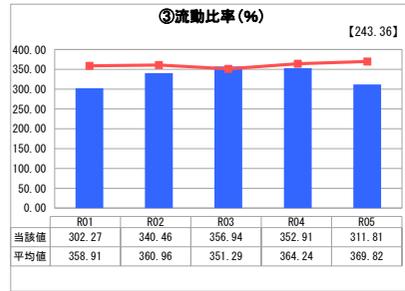
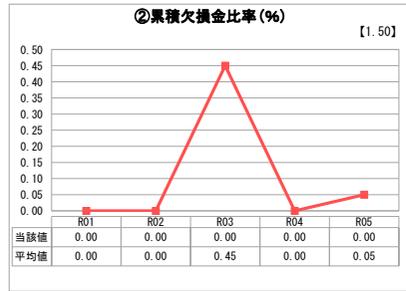
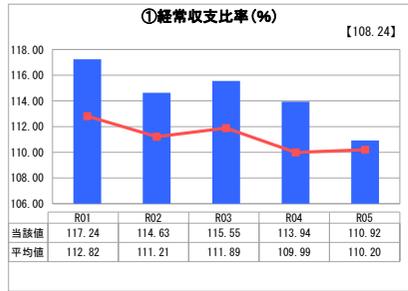
三重県 伊勢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	78.05	99.54	2,672	

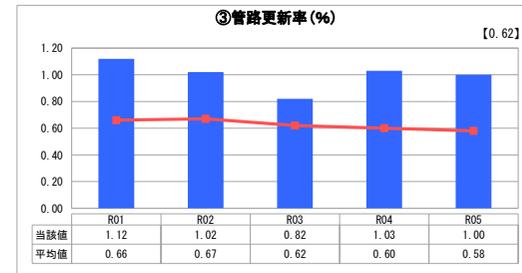
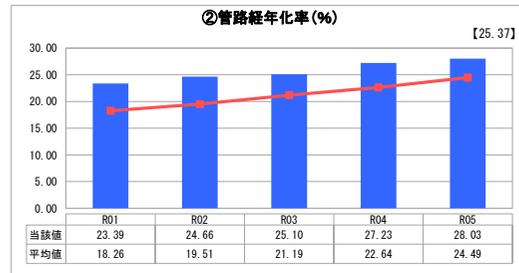
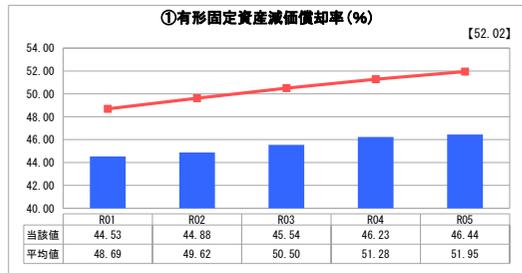
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
120,306	208.37	577.37
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
119,157	97.91	1,217.01

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性の観点から、①経常収支比率は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっており、②累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していないことを示す0%で推移していることから、健全な経営成績であるといえる。また、1年以内に支払うべき債務に対して支払い可能な現金等がある状況を示す③流動比率は、100%を大幅に超えており、短期的な債務に対する支払能力は問題ない。その一方、給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す④企業債残高対給水収益比率については、年々増加する老朽化管路の更新にかかる起債等より、類似団体よりやや劣っているが、全国平均に勝る数値を維持しており、健全な財政状態であるといえる。

経営の効率性の観点から、⑤料金回収率は全国平均、類似団体平均値をもとにも上回る数値を維持しており、給水に係る費用が給水収益で十分に賄えている状況である。有収水量1mあたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す⑥給水原価は、類似団体平均値と比較しても良好な水準を維持している。その一方で⑦施設利用率は0.60%減少し、施設の稼働が収益につながっているかを判断する⑧有収率についても、前年度より0.54%減少しており、施設の適切な管理や更新を行い、効率的な経営に努めたい。

これらのことから、類似団体と比較しても良好な水準で推移し、概ね健全かつ効率的な経営が行われているといえる。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す①有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較しても概ね良好に推移しているが、法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す②管路経年化率は類似団体よりやや劣っている。また、当該年度に更新した管路延長の割合を表す③管路更新率は直近5年間で見ると、概ね類似団体を上回っている。

これらのことから、基幹管路の整備などの新規投資及び下水道事業に伴う敷設替により①有形固定資産減価償却率及び③管路更新率は概ね良好である。

その一方で、②管路経年化率は、漏水実績等で緊急に更新すべき箇所等の整備を重点的に実施しているものの、法定耐用年数を超過した管路の割合が増加傾向で、類似団体平均と比べて依然として高くなっている。

### 全体概括

本市の水道事業の経営状況は概ね健全かつ効率的に運営し、老朽化の状況においても、概ね類似団体と同等の状況にある。しかし、1. ⑧有収率が減少し、2. ②管路経年化率が増加傾向にあることから、水道管路の老朽化が進行し、漏水が増加する恐れがあるため、「伊勢市水道事業ビジョン」で本市独自の更新基準を定め、災害対策を含めた更新事業を計画的に行っている。

また、本年度は本ビジョンにおける計画期間の中間年度であったことから、これまでの事業を振り返り、課題や施策の具体的な実現方策の見直しを行っている。今後、水道事業を安定的に継続するため、本ビジョンに基づいた予算・決算の進捗管理を行い、PDCAサイクルに基づいた確認・検証を繰り返すことにより、経営指標などの目標達成に向けた取り組みを推進していく。